

勸善懲惡圖錦面圖解

官詠

第卅五號

時習舎述

のま衛屋



大坂第天區十九小區捕擲の木筋南本町南入塗師職龜井
 久兵衛の女房おいくとこゝに其身懐妊つゞき目下四七の女子を抱
 當七月七日の夕つゞき家出て安治川お身を投げ四七の小児と
 ころゝる子と三命を一時お失へりやと尋ねる小此家小六の
 うぢち奉公する龜吉と云ふものとけ有は世間の評判ありし
 半人も聞捨て置れど此おくの姉を呼び也実お左様の事有
 へ家のをしまりまらる事や実否を糾一くれよと密小
 談合するを聞て家出せしる事くと笑ふおちの事有て
 面目をさ小身を投り又おぬれぎぬ着るるさ小身を
 投り今八死人お口を色其山吹実もなれど是懐妊
 とれのおちをんもあぬ雅子道
 と小沈む安治川のワトキ
 をさ身のちりやと小家よ
 十七の女子と七七の男子も有

おちの
 なかさを
 うりぬえ
 かなうん
 ありとさう
 あり

出版所

本町四丁目
 藤井時習舎